松戸に4月「開城」 光ヶ丘の隣

根木内歴史公園

ねぎうち

夏ならば、空翠（くうすい）したたらんとす、という風情があるだろうが、ただ静寂な冬の根木内歴史公園。ここから出撃を繰り返した戦争があったとは思えない。兵どもの夢の跡。

入り口、向こうの山が城跡

15世紀後半、戦国の城を復元

千葉県下で台地上にある大規模城郭というと、酒々井の本佐倉城、佐倉の臼井城、松戸の小金城（大谷口歴史公園）。小金城は南北六〇〇メートル、東西八〇〇という。それに比べると、根木城は東西二三〇、南北五五〇とされているが、実際は国道６号線が斜めに貫通し、旧水戸街道もど真ん中を突き抜けていて、いまの数倍の広さがあったと推定されている。

戦国動乱期に、軍事施設として根木内城が作られ、小金城は後に出来た。ともに高城氏の居城である。

小金というところに、小金城というお城がありました。その昔には、根木内というところにあったのですが、景色のいい高台の大谷口に移しました。そのため大谷口城とも呼ばれました。（それが落城し、二人の姫が死ぬ民話がある）

そばを上富士川、その氾濫原の湿地帯には一面に葦が生い茂り、シロダモ、スタジイの常緑広葉樹林とヒノキ、シラカシなどの針・広混交樹林が広がる。登ると、空堀、土塁、土橋などの掲示がある。数百年前の軍事施設を偲ぶのは難しい。なるほど、なるほどと思い登りきると芝生広場になり、その脇の転がり落ちそうな階段の下に国道６号が走っている。

豊かな自然を利用した市民グループの活動が盛んなようである。

㊤空堀（からぼり） 敵の侵入を防ぐための堀。幅８メートル、深さ4メートル。その堀を掘った土を盛り上げ、侵入を防いだ土塁（どるい）は2メートルほど㊦土橋（どばし） 空堀の一部を掘り残し、外部と結ぶ橋。侵入を防ぐため幅は狭い。

末広クラブ・逆井漫歩99　平成18年12月